【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成26年7月24日(2014.7.24)

【公開番号】特開2013-14105(P2013-14105A)
【公開日】平成25年1月24日(2013.1.24)
【年通号数】公開・登録公報2013-004
【出願番号】特願2011-149779(P2011-149779)
【国際特許分類】
Ｂ２９Ｄ　35/00　　(2010.01)
Ａ４３Ｂ　 7/32　　(2006.01)
Ａ４３Ｂ　13/18　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４３Ｂ　10/00　　１０１Ａ
Ａ４３Ｂ　 7/32
Ａ４３Ｂ　13/18

【手続補正書】
【提出日】平成26年6月6日(2014.6.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
衝撃吸収材３の厚みｚは、３．０～１５．０ｍｍ程度とすればよいが、本発明では、図１に示すように、ケース４の内高さx_1以上であることが好ましい。
ｚ≧x_1とすることで、吸収材３が踵に接しやすくなるので、衝撃を吸収する効果はもとより、吸収材の存在を実感する効果などがより発現されるうえ、歩行や運動時にケース４の縁４２に踵が当たる虞も回避できるので、快適な履き心地が得られる。
厚み差（ｚ－x_1）は、吸収材３の種類にもよるが、小さすぎると、衝撃吸収力が不十分になる虞があったり、ケース４の縁４２に踵が当たり履き心地が悪くなることがある。一方、大きすぎると、ケース４を中底２に縫着しにくい、ラストモールドに吊り込みにくい、違和感が生じる等の問題が出てくるので、０．８～２．０ｍｍ程度とすることが好適である。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
ケース４の形状は、図１，２に示すように、前記衝撃吸収材３に見合う形状であって、開口した上面から該吸収材３が収納・固定される程度の大きさであればよいが、足（踵）からの圧力がかかり、該吸収材３が潰れた際に、形状が変化できる程度に、該吸収材３と該ケースの内壁との間に空間をもって収納・固定される大きさとすることが好ましい。
衝撃吸収材３とケース４の内壁との間に設けられる空間の間隔が、小さすぎると、衝撃吸収材３が潰れ復元できる空間が十分に得られず、一方、大きすぎれば、歩行や運動時にケース４内で衝撃吸収材３が水平方向に動いてしまったり、位置ズレを起こしてしまい、衝撃吸収機能が果たせない虞があるので、本発明では、０．５～１．５ｍｍ程度とすれば

よい。